

Medical education and mental health during COVID-19: a survey across 9 countries

Daniel Michaeli, et al.

Int J Med Educ. 2022 Feb 26;13:35-46. doi: 10.5116/ijme.6209.10d6.

全文 URL : <https://www.ijme.net/archive/13/medical-education-and-mental-health-during-covid-19/>

9ヶ国における COVID-19 における医学教育とメンタルヘルス

この研究は、COVID-19 パンデミックの発生以降、9 カ国において、学生の心身の健康状態とともに、医学教育に対する経験の調査を行っている。

2020 年 6 月 22 日から 7 月 24 日にかけて、ブラジル、チリ、コロンビア、ドイツ、イタリア、日本、メキシコ、スペイン、ベネズエラの 148 校の医学部学生 2,280 名に、現地協力者が非確率便宜サンプリングで横断的オンライン調査を配布している。学生は、教育、インターネット利用、COVID-19、身体的および精神的な幸福感に関する質問に回答した。多変量ロジスティック回帰により、抑うつ気分、不眠症、頭痛との関連因子を検討している。

学術的な授業は、バーチャル環境 (67%、n=1,534) またはハイブリッド環境 (23%、n=531) に移行し、ベッドサイドでの授業は中断または中止 (93%、n=2,120) された。すべての国で、学生は対面式、ハイブリッド、オンラインカリキュラムの教育方法、量、質、評価システムに等しく満足していた。精神的症状 (不眠症 40% (n=912)、感情的イライラ 57% (n=1,300)、感情不安定 47% (n=1,072)、快感消失 41% (n=935)、抑うつ気分 40% (n=912)) と身体的症状 (頭痛 36% (n=821)、目の疲れ 57% (n=1,299)、腰痛 49% (n=1,117)) でネガティブな変化が多く観察された。1 日のスクリーン時間数と抑うつ気分 (調整オッズ比 (AOR) =1.09、95%CI : 1.05-1.12、p<.001)、不眠 (AOR=1.08、95%CI : 1.05-1.11、p<.001) および頭痛 (AOR=1.11、95%CI : 1.07-1.14、p<.001) に正の関連性が確認された。

パンデミック時の学生のデジタル・ハイブリッド医療カリキュラムの経験は多様であり、教育方法、量、質は肯定的に評価された。しかし、学生の心身の健康状態は悪化した。ベッドサイドでの教育に加えて、学部は社会的コミュニティをデジタル化・強化し、学生へのサポートサービスを拡充する必要がある。

要約作成者のコメント :

医療界に関わらず、あらゆる業態において新人教育や学生教育の環境は感染症流行により大きく変わった。本論文の調査は、感染流行が始まり比較的時間もない時期の調査であり、現時点ではこの頃よりも各所の努力により状況は改善の兆しを見せているが、感染流行期においては大学や施設によっては未だに学生のベッドサイド教育に影響を及ぼしている。また、ここで報告されている学生にみられる諸症状は、人間性を育む大切な時間である学生の時間を大きく損ねているという強い懸念がある。長期的な視点に立つと将来の医療界を担う学生の教育における障害は、未来の医療の質にも影響を与える恐れがある。今後、学生教育とともに現状に合わせた卒業後の見直しを考えていく必要があると考える。

要約作成者 : 昭和大学藤が丘病院内科系診療センター内科(腎臓) /

昭和大学 統括研究推進センター

西脇 宏樹